

After



ことです。ストレージ室の床はコンクリートですが、当然、鉄筋が走っています。これにアンカードリルが当たると、鉄筋をこするようにして斜めにむりやり穴を開けます。これが大変難航することが「しばしば」あるのです。かといって、アンカーを打たなくても強度がもつ、というまでの余裕はありません。場合によっては1本の足を設置するのに半日もの時間を費やすこともありました。現場で最後に頼りになるのはアンカーを打ち続けてうん十年というベテランのおやじさんで、困難な状況を切り抜けてくれたときには、とてもカッコよく見えたものです。

ともあれ、加速器を壊すような事故や、ビームライン等と干渉してしまってどうしても設置できないといったトラブルは一切なく、無事に全ての遮へいを設置することができました（写真After）。当時の苦労の後、今はあたり

りまえのように全周遮へいが立っていますが、工事が終わったときは感慨深かったことを思い出します。

その後、文部科学省への変更申請が承認され、目標としていたトップアップ運転もすでに開始されています。

思い返してみると、このようにまとまりのある仕事をさせていただくことができたのは、放射線取扱主任者であったこと、UVSOR施設で予算を手当てくださった中村所長、小杉施設長、加藤教授、そして何より、有形無形にご協力いただいた施設職員の皆様のおかげであったと思います。関わった全ての皆様に、感謝します。



遮へい設置工事の様子

技術職員
OBの今

田中 邦彦

株式会社イー・シー・プラネット 代表取締役（平成3年から6年まで技術課在籍）

皆さん、はじめまして。正確には「ご無沙汰しています」というほうが正解かも知れませんが。現在、株式会社イー・シー・プラネットの“営業”として分子研にも時々出入りさせていただいている田中と申します。よろしくお願いたします。なぜ、「ご無沙汰しています」なのかと申しますと、実は、平成3年から平成6年までの約4年間を分子研の技術課でお世話になっていたからです。技術課の鈴木課長をはじめ、当時いらっしゃった方々には、今でも時々お会いする機会がござ

います。

分子研にお世話になるきっかけとなったのは、FHL（ファコムハイタック株式会社）の社員として分子研に常駐していたことでした。そこでお誘いを受け、お世話になることになりました。今回、レターズの原稿執筆に際しては、15年ほど前になる当時の記憶を振り返ってみたいことにしました。

一番記憶に残っている当時の仕事は、インターネットへの参加に関わる一連の業務です。企業経営をしている現在も含



分子研技術課

めて、あの時が一番働いたものだと思います。当時は、まだ、WIDEプロジェクト¹⁾が実験ネットワークとしてインターネットの試みがされている時代でした。その時に、日本で初めての運用型ネットワーク組織であったTISN(東京大学国際理学ネットワーク)²⁾に分子研が参加することになり、その参加に係わる一切を任されたのがはじまりでした。もちろん、所属していた計算機センターでは初めての試みで、誰もそのノウハウを持っていませんでしたし、民間のISP³⁾なども存在しない時代でしたので、TISNのお膝元である東京大学理学部の坂村健先生の研究室へ足を運び、その研究室にいらっしゃった高田浩章さん(現名古屋大学院教授)から、接続に関する助言を多く頂き、研究所へ戻っては、目の前にある数台のサーバとでっかいルーターを相手に七転八倒していたことを思い出します。事務的な手続き、会議への出席、環境構築などで作業に没頭し、深夜になることがほとんどでしたが、仕事の充足感はたっぷりあり、むしろ、こんな機会

をいただけるのも分子研にいるからこそだ、と感謝の毎日を送っていたことを思い出します。

このように私が分子研で経験できたことは、人生でもなかなかできないことばかりだと思っています。当時、不謹慎にもスーパーコンピュータのメインコンソールで、キーボードの練習などを行っていたことは、身の程知らずもいいところで、まがりなりともそれが許される(本当は許されませんが)環境にいたこととそのスケール感を今となっては充分実感しています。目の前に当たり前のようにある環境は、誰もそれが特別なことと疑いもしないのですが、それが偉大な組織の中で守られ、その中で自分を育ててくれたことを、今はしみじみと感じます。たった4年間でしたが、分子研に在籍できたことは、自分の人生に大きな道筋をもたらしてくれました。

現在は、企業の経営の傍らで、岡崎市内で行われるさまざまなイベントからんでいます。地域SNSサイト「オカコミュ」⁴⁾の運営、りぶらまつり⁵⁾への支援、

市内へのイベント情報の提供など、地域活性化に少しでもつながればと地道な活動を行っています。そんな折、分子研の存在を知らない市民の方がとても多いことも事実として知りました。こんな世界的権威のある研究所を、岡崎の人はもっと知らなければいけないと思っています。なんとか、自分の活動を通じて、分子研の存在を知ってもらえることができるよう、その仲介の担い手として、買って出たいと思っています。それは、自分ができる分子研やそこでお世話になった方々への恩返しだとも思っています。

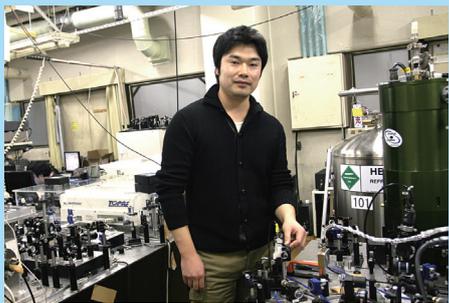
このように、分子研には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、当時お世話になりました内田技術課長、諸熊奎治先生、中村宏樹先生、北浦和夫先生、青柳睦先生、長嶋雲兵先生、そして、西本史夫(当時班長)さんにこの機会をお借りして感謝申し上げたいと思います。また、このような機会をいただいたレターズ編集委員会および技術課の皆様にご挨拶申し上げます。

本当にありがとうございました。

- 1) WIDEプロジェクト 慶應義塾大学の村井純教授らが中心になって1988年に設立された、インターネットに関する研究プロジェクト。
- 2) TISN (Todai International Science Networkの略) 1989年に東京大学理学部を中心に構築された日本発の運用型の学術ネットワーク。
- 3) ISP (Internet Service Providerの略) インターネットに接続するためのサービスを提供する企業あるいは団体。日本ではIJJが1993年日本発のISPサービスを行った。
- 4) オカコミュ (岡崎コミュニティの略) 岡崎市の地域SNSサイト。NPO関係者、地元雑誌関係者、地元FM局の関係者など、岡崎市の活性化のための情報交換サイトとして運営中。http://okacomm.acplanet.biz/。
- 5) りぶらまつり 2010年2月27,28日に開催予定のりぶらサポーターズクラブ主催の岡崎市民手作りのお祭り。

平成21年10月1日付

光技術班に 岡野泰彬さん 着任



主な業務：
レーザーを利用した装置・方法論の開発および維持発展を担当。

自己紹介文はP.33をご覧ください。

平成21年11月1日付

学術支援班に 寺内かえでさん 着任



主な業務：
サイエンスコミュニケーターとしてプレスリリース、アウトリーチ活動等を担当。